AJCC開催50回記念特集

前に進もう、自分らしく

2026年に開催50回目の節目を迎えるALL JAPAN CREW CONTEST（AJCC）は、選ばれた人だけの舞台ではありません。昨日より今日、今日より明日と、小さな「前進」を積み重ねることで、誰もが自分自身の成長を実感できる場です。今年も日本全国から“たくさんのクルー”が、それぞれの目標に向かって努力を重ね、ときには仲間の挑戦を後押ししながら、一歩ずつ「前進」していきます。

AJCCは全国のクルーがトレーニングの成果を発揮し、成長に向けて一歩踏み出すコンテスト

お客様の期待を超える店舗体験を提供するために、日々トレーニングを積み重ねてきた成果を発揮し、さらなる成長に向けて挑戦するレクニショップログラムです。一人ひとりの挑戦と努力を認め、称え合う場でもあります。第1回大会が開催された1977年から合計300万人以上のクルーが参加してきました。キャリアの長さに関係なく日本全国すべてのクルーが審査対象であり、AJCCを活用した年間のトレーニングサイクルによって、“クルーの成長＝マクドナルドの成長”の実現をサポートしています。

（左から）マネージャー 尼崎 樹里さん、トレーナー 井上 姫弥歌さん、マネージャー 太田 芽生さん、店長 留岡 優旭さん、マネージャー 藤井 由涼菜さん、クルー 林 直輝さん、マネージャー 山本 拓実さん

「やってみよう」が、広がる店
AJCCを、仲間みんなの挑戦のステージに
in 本山南店（兵庫県）

AJCCの始まりはトレーナーの育成から

本山南店では、AJCCを「店舗の代表者だけの大会」にはしなかった。店舗全体で挑戦するものにするため、「エンジョイピーク®」の浸透や計画的なトレーニング、一人ひとりに合わせた声かけなど、日々の育成の進め方を見直した。その結果、半年で6名がトレーナーへタイトルアップ。「自分も挑戦したい」。そんな声が、少しずつ店のあちこちに広がっていく。

※忙しい時間帯を、練習の成果を発揮する“成長を実感できる場”や、みんなで連携し乗り越える“チームワークを実感できる場”にしようという考え方。

その背景には、春の卒店により、多くのクルーが店舗を離れたことがある。新しい仲間を育てながら、お客様へのサービス品質も維持していこう――。根底にあったのは留岡店長の「人が育つ店」であり続けたいという想いだ。

ピークが、一番楽しい

AJCCに向けて最初に取り組んだのは「エンジョイピーク」の浸透だった。ランチタイムやディナータイムなど多くのお客様が来店される時間帯（ピーク）を、「忙しいから大変」ではなく、「日々のトレーニングの成果を発揮できる時間」に変えていく。そんな前向きな空気が、少しずつ店に広がっていき、オペレーションにも良い変化が生まれた。

その考え方を店舗全体に根付かせるため、自らもAJCCに挑戦するマネージャーの藤井さんと、各時間帯を担う6名のトレーナーが中心となり、育成の仕組みも見直した。クルー一人ひとりの習熟度や課題を共有しながら、朝・昼・夜それぞれの時間帯で計画的にトレーニングを実施。そうした日々の積み重ねが、AJCCを代表者だけの大会ではなく、店舗みんなの挑戦のステージへと変えていった。

「やってみよう」が、人を育てる

AJCCに向けた取り組みを進める中で、変わったのは教わる側だけではない。教える側にも変化が生まれた。

言葉の壁を乗り越えながら働いている外国人クルーなど、多様なバックグラウンドを持つクルー一人ひとりに合わせた伝え方が求められた。「私も人前で話すことが得意ではなかったので、その気持ちはよく分かるんです」と話す藤井さん。だからこそ、「すごいね」「ナイスプレー」と伝えるだけでなく、なぜ良かったのか、その行動がお客様にどんな価値を生むのかまで伝えるよう心がけている。相手に届く伝え方を考えながら、一人ひとりに合わせて声のかけ方や教え方を工夫している。

こうした積み重ねを通じて、教える側も相手に伝わる教え方を考え続け、自らの成長も実感するようになった。「自分もAJCCに出場したい」「新しいポジションにチャレンジしたい」と手を挙げるクルーも増えている。その中には、周囲の後押しを受けながら、アルバイト歴約1年でトレーナーへタイトルアップした井上さんのようなクルーもいた。

「自分もやってみよう」。そんな想いが広がり、本山南店では今日も新たな挑戦が生まれている。

AJCCを店舗みんなの目標にするための
3つの工夫！

1 忙しい時間こそ楽しむ「エンジョイピーク」

ランチタイムを「成果を発揮する時間」「店舗のチームワークを実感する時間」と捉え、仲間と声をかけ合いながら前向きにピークへ臨む意識を育てている。

2 カレンダーによる計画的なトレーニング

誰が、いつ、どのスキルを学ぶかを記載。各クルーの習熟度を見ながら、クルーのトレーニングスケジュールを検討し、常にさまざまなクルーが挑戦できる仕組みを整備している。

自らポテトプロと名乗り、ポテトのパギングスキル向上をサポートした太田さん

3 一人ひとりに合わせた声かけ

良かった行動だけでなく、その行動がお客様にどんな価値を届けたのかまで伝え、一人ひとりに合った声かけを心がけている。

クルー林 直輝さんのAJCCへの意気込み！

周りのクルーがAJCCに挑戦する姿を見て、「自分も挑戦してみたい」と思うようになりました。大会は特別な人だけのものではなく、自分のように店舗の誰もが目指せる目標なんだと感じています。今回はドライブスルーランナーの店舗代表として出場します。日頃のお客様対応の積み重ねを発揮し、常に寄り添う姿勢を大切にしながら、自分らしく挑戦したいです。

（左から）マネージャー 櫻井 麻衣さん、マネージャー 山本 裕美さん、店長 宮本 真美さん、マネージャー 三田 恵美香さん、クルー 佐藤 亜弓さん、オペレーションコンサルタント 酒徳 真帆さん

「できた」が次の一歩になる
AJCCが広げる、一人ひとりの可能性
in 伊勢宮川店（三重県）

まだ見ぬ可能性に気づいてほしい

「成功体験を積み重ねて、まだ見たことのない自分の可能性に気づいてほしいんです」。宮本店長がAJCCを通じてクルーに伝えたいのは、勝ち負けだけではない。一歩踏み出すことで自信をつけ、自分でも気づかなかった力を見つけてほしい。その想いを象徴するように、クルールームにはAJCC2026のテーマ「前に進もう、自分らしく」のポスターが掲げられている。今日もその言葉が、クルーたちの背中を押している。

「できた」を見つける声かけを大切に

AJCCへの挑戦を店舗全体でさらに盛り上げていくために、ますカを入れたのは、トレーニングに関わるメンバーの意識合わせだった。トレーニングを行う上での考え方はもちろん、審査を通して「どこを見るのか」「どう伝えるのか」を、マネージャーやトレーナーが学び直していった。

酒徳さんは「最初の頃、クルーは『審査される』という意識から動きが硬くなってしまって。そこで、『審査を楽しいものにするために、だめだったことを伝えるのではなく、何が良かったかをクルー本人に振り返ってもらうのはどうか』とマネージャーたちに提案したんです」と当時を振り返る。

マネージャー、トレーナーの一人ひとりがトレーニングのあるべき姿を再確認する中で、フィードバックの仕方も変わっていった。ただ褒めるだけではなく、できたことは周囲にも共有し、みんなで拍手をして喜ぶように。次第に伊勢宮川店では、審査が「チェックされる時間」ではなく、自分の成長を実感できる、「また挑戦したい」と思える時間へと変わっていった。

一人の挑戦を、みんなで支える

さまざまな取り組みの結果、伊勢宮川店では、マネージャーやトレーナーによるオペレーション評価を受けたクルーの割合が100％を達成。多くのクルーが積極的にスキルアップに取り組むようになり、平均エキスパート保有数は4つを超えた。

マネージャーの櫻井さんは、「トレーニングの時間に限らず、普段からクルーの表情や動きをよく見て、不安なことはないか気にかけています」と話す。自身もAJCCでの挑戦の過程で、気持ちを前向きに保つ難しさにぶつかった。だからこそ、クルーのオペレーションだけでなく、一人ひとりの気持ちに寄り添う姿勢を大切にしている。

そうした支えを受けた一人が、AJCC2026にポテトパーソンとして出場した佐藤さん。「練習で思うようにいかない時、マネージャーや仲間が時間をつくり、一緒に原因を考えてくれたことが印象に残っています。伊勢宮川店の“絆”を実感しました。今度は自分が受け取った学びや経験を、次に挑戦するクルーへつないでいきたいです」と語る。

挑戦を通して得た成功体験は、自信となり、次の挑戦へとつながっていく。そして、その経験はまた新たな挑戦者へ受け継がれていく。一人の成功体験が、誰かの可能性を広げるきっかけになる。そんな挑戦の連鎖が、今日も伊勢宮川店で生まれている。

AJCCへの挑戦を支える 3つの工夫！

1 AJCCに触れる機会を増やし、挑戦を身近なものに

クルールームには、AJCCの目標を記したポスターを設置。目標や取り組みを見える形にすることで、クルーが日々の業務の中でAJCCを意識し、自分たちの挑戦として前向きに取り組めるようにしている。

2 一人ひとりのスキルを「見える化」する

クルーのオペレーションをどれだけ評価したか、またクルーがどれだけ多くのエキスパートを保有しているかを、マネージャー間で定期的に確認。誰を、いつ、どのポジションで審査するかをすり合わせ、計画的なトレーニングスケジュールづくりに生かしている。

3 審査は一度で終わらせず、繰り返し確認する

クルーのオペレーション評価は、同じポジションでも2巡目、3巡目と繰り返し実施。できるようになったことを定着させ、さらなるスキルアップにつなげている。

マネージャー 三田 恵美香さんのAJCCへの意気込み！

以前のAJCCでは、緊張もあって思うように力を発揮できませんでした。その経験を糧に今回はシフトリーダーとして再挑戦します。店舗状況に合わせて臨機応変に動く役割だからこそ、日々学ぶことばかりです。実は娘も別の店舗でシフトリーダーとして働いていて、互いに学び合える“戦友”のような存在です。伊勢宮川店の皆さん、そして娘と一緒に頑張りながら、一段ずつ成長していきたいです。

© McDonald's